

図書館だより



No.205

2017(平成29)年3月31日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

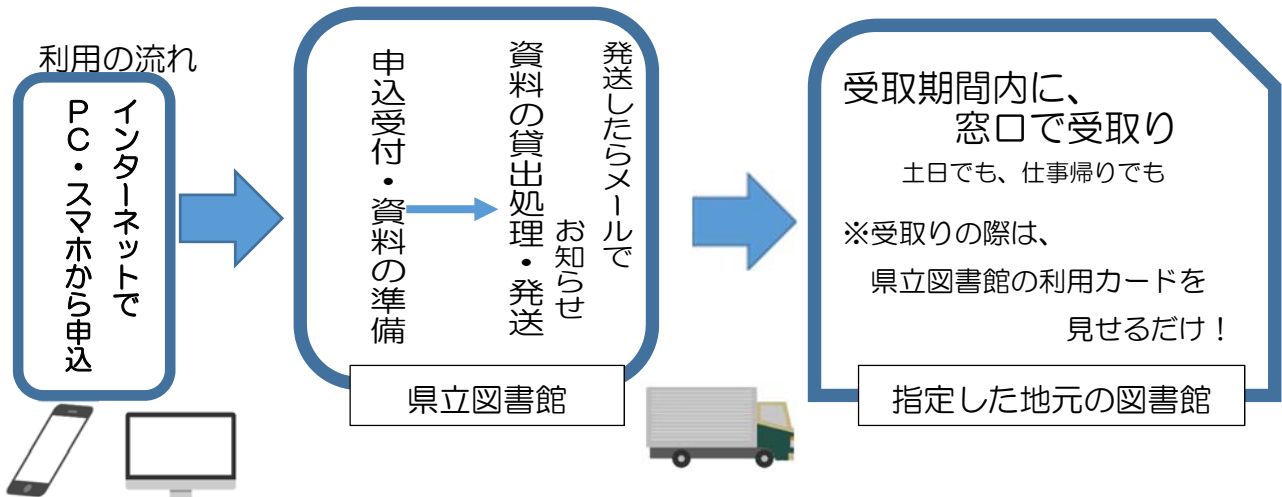
<https://www.library.fks.ed.jp/>



◆ 3月から始まったサービスのお知らせ ◆

「受取館指定サービス」(試行)を始めました

県立図書館の本を、無料で取り寄せたいと考えたことはありませんか？
県立図書館ホームページから申し込みれば、地元の図書館で無料で本を受け取れる！
そんなサービス始めました。



詳しくは、福島県立図書館ホームページ(お知らせ欄)をご覧ください!

◆ 展示のお知らせ ◆

「城絵図展～ふくしまの城絵図を中心に～」

平成29年4月7日(金)～4月30日(日)

棚倉城を築き、小峰城の大修築をおこなった白河藩主・丹羽長重(にわながしげ)の没後380年にちなんで、当館の所蔵する城絵図を展示します。

前期・後期で展示する資料を入れ替えますので、様々な城絵図をご覧ください。(場所：展示コーナー)

前期：4月7日(金)～4月16日(日)

「陸奥国白川城之図」「白河旧城内図面井上申書」「棚倉城郭絵図」「棚倉城外地割絵図」

後期：4月18日(火)～4月30日(日)

「二本松旧城内之全図」「福島旧城郭之図」「福島旧城郭絵図」「平城郭之図」

◆本のひろば セレクション展示◆

●「日本の城・世界の城」

日本や世界の城に関する資料を展示します。建築としての城、その城ができた背景などに関する資料を展示します。

●「ふくしまの城」

県内の城郭に関する資料を中心に福島県の歴史を知るための資料を展示します。

場所：福島県立図書館 本のひろばセレクションコーナー

会期：平成29年4月7日(金)

～5月31日(水)

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『怪書探訪』古書山 たかし／著 東洋経済新報社
2016.11 024.8/㊦16Y/

古書蒐集家である著者が、稀少な、あるいは珍奇な「怪書」との出会いや魅力を語った作品。有名作家の署名本をめぐる冒険、明治の文豪が書いた桃太郎のトンデモ後日談の内容、入手困難な奇書中の奇書を自作製本した話など、古書・怪書をめぐる珍エピソードが情熱的に紹介されています。本の蒐集には興味の無い人も、筆者の怪書への熱意に引き込まれ、楽しく読める一冊です。

『私たちは宇宙から見られている? 「地球外生命」探求の最前線』ポール・マーディン／著 日本評論社
2016.10 440/㊦16X/

感覚を持った地球外生命体に出会うことはできるのでしょうか。まるでSFのような話ですが、本書は欧州天文学会の重鎮が天文・物理学から生物学、化学、地質学を絡めて宇宙科学全般を案内しながら、宇宙生物学の最前線を紹介しています。ロマンを与えてくれるだけではなく、開発の可能性を秘めた宇宙。そんな宇宙に思いを馳せてみるのも興味深いことなのかも知れません。

『「ユマニチュード」という革命 なぜ、このケアで認知症高齢者と心が通うのか』イヴ・ジネスト／著 誠文堂新光社 2016.8 369.26/㊦168

攻撃的な認知症高齢者が穏やかになり、寝たきりの人が自らの意思で立って歩く。これらは「ユマニチュード」という、フランス発の優しさと慈しみを伝えるケアの哲学・技術によって起きたことです。本書では実例をあげながら、認知症高齢者を一人の人間として見つめ、話し、触れ、立つ支援をして絆を結ぶことが、高齢者と介護者両方の負担を減らす合理的なケアにつながると説明しています。多くの人が苦しむ介護の現場で「人とは何か」と洞察する哲学から生まれた、この実践技術への関心が高まっています。

児童・児童図書研究

『木と日本人 全3巻』ゆのき ようこ／監修・文理論社 2015.9 653/㊦

本シリーズは、丸太・樹皮・葉など木の部分ごとに、日本人がこれまでの暮らしの中でどのように木を活用してきたのかを、美しい樹木画や写真とともに紹介しています。「適材適所」という言葉にあるように、それぞれの木の特性に合わせ、ものづくりが行われてきたことが分かります。例えば、新幹線のレールのつぎ目のような重要な場所には、丈夫で水に強いクリのまくら木が使われたそうです。衣食住に密接に関わり、日本文化を育ててきた木の奥深さや先人の知恵が隔々にまで感じられ、子どもから大人まで楽しめます。

雑誌・新聞

わたしたちの生活や経済を支えている物流業界、に、危機の兆しが報じられています。モノの買い方や流通形態が多様化した現在。荷物の急増と人手不足から、物流業界は岐路に立っています。これからの日本の物流はどのように変わっていくのでしょうか。特集・関連記事をご紹介します。

*特集 物流が壊れる

『東洋経済』2017.3.4日号 Z/330.5/T4

*特集 環境対策が窮地を救う「荷主選別」時代の物流戦略

『日経エコロジー』2017.2月号 Z/519/N2

*特集 Amazon研究

『宣伝会議』2017.4月号 Z/674/S6

*特集 交通を支える人々

『運輸と経済』2016.10月号 Z/680.5/U2

*特集 都市物流の最新事情

『IATSS Review』2016.6月号 Z/681.4/I1

*連載〈企業研究〉ヤマト運輸

『選択』2017.3月号 p.84-87 Z/305/S4

*「Yamato to pay unpaid overtime」

『The Japan Times』2017.3.5日1面

*「ヤマト値上げ中小が歓迎 人手不足の運送業」

『日経産業新聞』2017.3.8日1面

地域

『よろこび多いまち喜多方のおばあちゃま 瓜生岩子物語』池田 げんえい／絵 鎌木 桜子／文

2016.6 瓜生岩子絵本制作委員会 L289/U1/20

明治時代に社会福祉事業に一生をささげた瓜生岩子の伝記絵本です。

孤児、老人といった弱い立場の人たちのために施設を作ったり、貧しい人のための病院をつくったり、産婆のための講習会を開いたりとその活動は多岐にわたっています。

絵本ですが、瓜生岩子を知る最初の1冊として大人にもおすすめです。

『フラダン』古内 一絵／作 小峰書店 2016.9
L913.6/F12/1

人間関係のこじれから水泳部を辞めた、浜通りの県立高校2年生、辻本穰。帰宅部ライフを満喫しようとしていた彼を待ち受けていたのは、まさかの「フラ男子」ライフだった…!?

登場人物たちが踊る熱気あふれるフラの描写は、まるで読者自身が舞台に立っているかのような錯覚を引き起こします。また、一般のイメージでは忘れられがちな男性ダンサーの視点から描写される物語は、フラの知られざる魅力を読者に教えてくれます。

単なる部活ものではなく、東日本大震災の被災地に住む人々の実情も正面から描写されています。